

自分の造りたい家とは？

こうして、それまで加盟していたグループを退会したあとは、今まで勉強してきたノウハウを元に独自の高性能住宅を造るようになっていました。

プランやディテールデザインにも十分時間をかけて、それぞれのご家庭のライフスタイルと合致したものをご提案出来るようになり、お客様の満足度もかなりアップしてきたのを実感出来たのはこの頃だったと思います。

「住んで快適、デザインや間取りもお客様の希望に叶う家を造れるようになった」。普通ならこれ以上の物はないと満足するのが一般的な考え方かもしれません。が、この辺りから再び私のチャレンジ精神に火が点くことに…。

流行に惑わされない家

デザインや間取りには実は流行があります。10年前にはあれほど流行っていたデザインの家も、今振り返ると、どうしても古っぽい家に見えてしまう。10年、20年と時を重ねても寂れた古さを感じさせない家を造りたい！と強く思うようになったのです。

当時、たまたまお客様の影響で始めたサーフィンに魅了されて毎週のように海に通っていた私は、海辺の街に建つ家、特に湘南の住宅が気になる存在になっていました。

車から見えるその家々は、10年前、いや20年前に建てられたものもありましたが、その殆どは古い印象がなかったのです。むしろ年月を重ねた分がそのまま味わい深さのある家になっていました。

この建物にショックを受けた私は、湘南の海辺の家々に負けない

OKAKEN ならではの住宅を造ってやろう! という決心が固まりました。

こうして少しずつ、このスタイルが定着するようになり、自分でも満足のいく、海辺にあるような家を作る事が出来るようになったのです。



ダブル断熱と換気の悩み

しばらくした年末の或る日、家の性能や造り方について改めて新しい情報も含めもう一度見直してみようと、断熱素材から断熱方法、気密のとり方や換気について再検討する事になりました。

内断熱での施工の場合、断熱材以外の木の部分から熱ロスがあり、外断熱では外部に取り付ける断熱材の材厚にどうしても限界がある為、断熱不足に陥る可能性がある…。

どちらにも一長一短があることをしばらく考えていた時にふと名案が浮かびました。「そうだ! 内・外の両方とも断熱すればもっと快適ないい家出来るはず!」

私の考えでは、床下に暖房器具を設置する事を前提としており、そうすると空気の流れが今までの換気方法とは相性が悪くなってしまうのです。

何回考えてもこの点だけが解決出来ずに、目の前の霧が晴れることのないまま新年を迎えてしまいました。

いつものように事務所で住宅関連業界の新聞を読んでいると、そこに長野県No.1ビルダーの記事が載っており、興味を覚えてその会社のHPを何気なく見ていると…私が考えていたあの工法とほぼ同じ内容の工法で20年前から住宅を造っていると書かれているではありませんか! 20年前!? 何ーいつ! 俺の頭は20年前のレベルか? と少々へこみましたが、落ち込んでいる暇はありません。詳しい工法をこの眼で確かめてみたい! 体感したい! と思う一心で早速その会社の社長さんに電話をしてみました。

その会社は、年間150棟を手掛けている長野県内ではNo.1の地元ビルダーでしたが、社長さんは私の突然の電話にも快く応じてくれ、

一度実物を見に来てみてはどうか、ということになりました。思い立ったが吉日です。早速、長野のその会社の展示場に伺ってみると、これが今まで味わったことのない何とも言えない暖かさだったのです。

今まで悩んでいた換気の方法は今まで私が考えていた方法とは全く異なる手法でしたので、一瞬、本当に大丈夫なのか？と不安になるくらいの社長さんの言葉でした。しかし、実際にこれで20年も前から実績を重ね、今年度もまた新たに150棟を建てているのですから間違いはないはず…。

今まで、私が造ってきたこれまでの家も十分に暖かかったのですが、そこでは“やわらかい暖かさ”を感じたのです。暖かさの質がまるで違う！私自身がこれを体感して確信が持てました。

ロハスな家が完成

そうして、早速 OKAKEN がこの工法を採用した一棟目となる、私の弟の家が着工を迎えました。今までの当社の造り方とは違いがあるものの、これまでの高性能住宅の造り方のノウハウはしっかり根付いておりましたので、比較的スムーズに工事が進んで建物が完成しました。

オープンハウスは2ヶ月間の土日限定で、毎週土曜日の夜から実際にこの家で一泊して貰えるようにと体験宿泊の企画も考えました。いよいよイベントが始まり、ご来場戴いたお客様からは「えっ！これ床暖房じゃないの？」「何でこんなにやわらかな暖かさなの？」という声が多く、皆さんの顔が??の連続です。

それもそのはず、この工法は外断熱と内断熱の両方の良いところ取りしたミックスの造り方で、室内に暖房器具は無く、床下に設置

した暖房器具から、床下～壁～天井へと暖かい空気が通ることで、六面ふく射暖房になっているのです。

こうして大好評だった2ヶ月間のオープンハウスでこの先約1年間の受注を頂くことが出来ました。

新たに取り入れたこの工法で、順調に仕事が続く中、どうしても後回しになっていた懸念事項がありました。それは、この頃事務所では、私と弟に現場担当、パートの計4人が狭い中でひしめきあうように仕事をしていました。

さらに、お客様が来社する際には駐車スペースも事欠く状態だったのです。

新しいオフィス

思い切って今の自宅兼事務所を出て、新たにこの工法で社屋を造ることを決めました。以前から漠然とした土地探しを続けていたのですが、金額面や立地条件などで私の理想と合致する物件に巡り会えることがないまま1年が経っていきました。

そんなある日、ある売物件に目が留まり車を停めて見てみると、そこには古い大きな倉庫と家屋が1棟、脇には物置小屋が建っていました。どの建物も大変傷んでおり、パッと一目見た感じではとても好印象と呼べる雰囲気ではありませんでしたが、私にはピンと来るものがありました。

土地全体も私が思い描いていた広さがあって、高崎インターから程近い立地条件も気に入りました。後は価格面で折り合いがつくのなら、と早速不動産業者から売主さんに連絡を取って貰う運びと

なりました。仲介の業者さんの協力も手伝って、僅か1週間後には契約という、まさにとんとん拍子で事が進みました。

土地が決まり解体が終わり、新社屋も完成し、平成19年の6月、晴れて移転の日を迎えました。

当初の計画通り社屋の工法も弟の家と同じ造りにしたので、夏冬問わず快適です。特に冬はやわらかな暖かさで過乾燥に陥ることもなく最高です。内装や外装も年月が経つにつれ味わいのある素材を選び、間取りはシンプルに四角、屋根は大きな三角の昔からあるログハウスのような飽きの来ないデザインにしました。

新社屋も完成し、工法もデザインも十分納得できる家を造れるようになった今、改めて長いマラソンのスタート地点に立つ気持ちのような私がありました。

おわりに

長文に最後までお付き合い頂きましてありがとうございました。

OKAKEN HOME ならではのスタイルを築き始めてから、およそ15年…。これから先も新たなチャレンジは続いていきますが、創業当時のあの熱い想いを忘れずに、ずっと変わらないベーシックな部分と新鮮な時代の波をミックスさせた私達ならではの住まいを造っていかうと思います。

「OKAKEN HOME History」は始まったばかり…。

この物語は、まだまだ続いていきます。

